

いつもと違う道を歩いていて、石ころに蹴躓(けつまず)いて倒れたら、そこに宝が落ちていたなんてこともあるかもしれない。

この部分は、「本との出会い」を「宝石を掘り出すこと」に喩えて説明している部分の一節です。比喻を使ってわざわざ説明している部分なので、その意味を訳してしまったら、元も子もありません。が、実際には、意味を伝えるのが言葉なので、「比喻」という表現技法を取り払って訳してもいいという考え方もあります。どちらでもいいのですが、今回は、「石ころ」や「宝」がそのまま文脈に入るように、比喻を生かして訳出することにしました。

また、「いつもと違う道を歩いていて、」は、「石ころに～倒れ(たら)」とつながっていると考えることもできますし、「そこに～あるかもしれない」とつながっていると考えることもできると思います。ここでは、前者の考えを採用して、「いつもと～倒れたら」が、全体として「そこに～あるかもしれない」を修飾していると考えます。

A. そこに宝が落ちていたなんてこともあるかもしれない

まず、「なんて」の部分の説明してしまいます。これは、「落ちていた」で表される部分に対して、【いいこと】というイメージを付け加えている感じがします。かなり薄い意味ですが、そんな感じがしませんか？ところが、思いついたのはいいものの、なかなか頭の中で、それが表せる表現が見つかりません。かなり薄い意味なので、思い切ってこの部分は切り捨てることにしました。

「かもしれない」は【可能性がある】ことを表す **may** でいけそうです。「こともある」も【可能性がある】を表していますが、二つ重なっているからと言って、その分可能性が上がってる感じも下がっている感じもしません。 **sometimes** あたりで重ねてもいいのですが、ここでは **may** 一つで乗り切ることにします。

(1) S may DO

may の後ろにつける動詞は、「落ちていた」が表す部分です。 **lie** や **fall** などを用いて攻めることもできそうなのですが、今回は、「落ちていた」場面をもっと広げてイメージすることにしました。その中には、「宝」を指さし、「え？あ！！！」となっている人が浮かんできました。このイメージは、いくつか表す方法があると思いますが、ここでは **find** を選びます。

・ S find A 「SはAを見つける」

S には【発見する主体】が入ります。【一般の人】なので、 **people** などでもいけると思いますが、ここでは **you** を利用します。【発見する対象】である **A** は **treasure** です。ちなみに、この部分は、比喩的な方向で訳出をしていますが、そうでないのなら、【これから意味を帯びてきそうなもの】というイメージを前面に出して、 **something important** でも OK だとおもいます。

(2) **you may find treasure**

そこに

there を典型的な位置に置いておきます。

(3) **you may find treasure there**

B. いつもと違う道を歩いていて、石ころに蹴躓(けつまず)いて倒れたら、

修飾語の処理は、つなぎの表現からです。に瀕語ではつなぎの表現は末尾にあることが多いので、その着眼点から攻めたいと思います。

(a) (S) (V)したら、

全体を **A** につなげているのは「たら」の部分から、**if (S)(V)**だと思いません。

(4) if (S)(V)

が、この**(S)(V)**の部分は、「いつも～歩いている」と「石ころに～倒れる」の二つの出来事が含まれています。それぞれを、**and** でつなげて、**if** の後ろに後続させるという方向でいきたいと思います。

(b) いつもと違う道を歩いている

述語は、

・ **S walk 「Sは歩く」**

を使います。「歩いている」とあり、**【最中】**というニュアンスもありそうなので、進行形でも表現できると思いますが、ここでは現在形のままでいくことにしました。

(5) you walk

「道」は、取り立てて、街の通りを表しているわけではないので、**road** を使います。「いつもと違う道」はたくさんありそうなので、読み手は特定できません。なので **a** をつけておきます。

a road を **walk** につなげる場合、

- ・ **on A 「Aの上を」**

でもいいのですが、ここでは、

- ・ **along A 「Aにそって」**

を使います。典型的に、場所表現は出来事の後ろに置かれるので、**along a road** を(5)の後ろにつけます。

(6) **you walk along a road**

いつもと違う

この部分は **road** につながっています。**SV** をそろえた形で処理できそうなので、関係詞節を作ることになりました。

述語は、「違う」から、

- ・ **S is different from A 「SはAとは違う」**

が利用できそうだと思いますが、もしそうすると、**A** に入れるものに困ると思いました。**S** には先行詞である **a road** に当たるものが入りそうなのですが、**A** にもし「いつも」を英語にしたものを入れると、**a road** と **usually (usual?)** が違うということになってしまいます。これは変だと思い、別の述語を探すことにしました。

なかなか思いつきません。そこで、困った時によく使うのですが、**逆の場面を浮かべて、最後に否定文にする** という技術を使ってみました。

「いつもと違う」わけではないイメージを浮かべると、【**いつもの場所で、てくてくしている**】様子が浮かびました。これまた **walk** です。これをそのまま使ってもいいのですが、多少格好つけて、

・ **S take A 「S は A を行く」**

を使うことにしました。

【**移動している主体**】である **S** は、引き続き【**一般の人**】です。you を選びます。【**移動する場所**】である **A** はここでは、先行詞で使っている **a road** です。否定文にすると次のようになります。

(7) **you don't take a road**

【**いつもの場所で、てくてくしている**】の中で、表現していないのは、【**いつもの**】ですね。usually を入れます。「いつもと違う」というのは、「いつも」を否定しています。否定される表現は **not** の後ろなので、**don't** の後ろに **usually** を入れます。

(8) **you don't usually take a road**

最終的に **a road** は先行詞と一緒になので、関係詞にして、(7)のカタマリの一番初めに表現します。

(9) **which you don't usually take**

そして(9)が修飾する先である **a road** の後ろに置きます。

(10) **you walk along a road which you don't usually take**

(c) 石ころに蹴躓(けつまず)いて倒れる

「つまずく」から、

・ S stumble over [on] A 「S は A につまずく」

「倒れる」から、

・ S fall down [over]

をつけ足してもいいですし、一括して、

・ S fall down [over] A 「S は A につまずいて倒れる」

という表現もあります。いずれにしても発想しづらい表現です。今回は(b)と並べなければならないので、複雑さを避けるために、後者を取りたいと思います。

【**転ぶ主体**】である S には、引き続き you を入れます。【**転ばせるもの**】である A は「石ころ」です。a stone でも、比較的小さい石を表す a pebble でもいいと思います。今回は前者を採用します。

(11) you fall down a stone

(d) (a) + (b) + (c)

まず(10)と(11)をつけ足します。

(12) you walk along a road which you don't usually take, and you fall down a stone

二つの文ともに主語である **you** が重なっています。こういった場合、後ろの主語は表現されないことが多いので、それに従います。

(13) **you walk along a road which you don't usually take, and fall down a stone**

これを(4)の if (S)(V)の(S)(V)に入れる予定でしたね。

(14) **if you walk along a road which you don't usually take, and fall down a stone**

C. A. + B.

(13) 自体は、カタマリで(3) **you may find treasure there** を修飾しています。通常 **if (S)(V)** は、修飾される **SV** の前に来ても、後ろに来てもいいのですが、(3) の中に **there** があり、それが指し示す **a road** をはじめに表現したほうがいいと思い、作った **if (S)(V)** のカタマリを前に置き、その間にカンマを置きます。

(15) **If you walk along a road which you don't usually take, and fall down a stone, you may find treasure there.**

最後に、**take** の後のカンマが気になりました。**fall down a stone** は後ろの **you may** 以下とではなく、**walk along** と並んでいる表現です。それを強調するために、カンマをなくすことにしました。

(16) **If you walk along a road which you don't usually take, and fall down a stone, you may find treasure there.**

Model Answer

If you walk along a road which you don't usually take and fall over a stone, you may find treasure there.